

# 困窮者支援連携語り合う

## こうちネットホップ 設立15年シンポ

高知市

生活困窮者らの支援に取り組むNPOこうちネットホップの設立15年を記念したシンポジウムが22日、高知市の高知県立大学永国寺キャンパスで開かれ、福祉関係者らが連携の在り方について意見を交わした。社会貢献支援財団（東京）の安倍昭恵会長も登壇し、講演した。

ネットホップは2010年に発足。路上生活者らに食料を配布し状況を聞き取る夜回りを続け、22年には家庭内暴力などで居場所を失った人らが一時滞在できるステップハウスを開設。昨年未までに40件の利用があったという。

約60人が集まったシンポでは、代表を務める同大学社会福祉学部の田中きよむ教授がこれまでの活動と支

援事例を紹介。市福祉事務所、市社会福祉協議会、県女性相談支援センターの担当者を変え、連携した支援について討議した。

生活保護は安定した住居がなくても申請できることが知られていなかったり、同センターでは親子間の暴力により10、20代の若年層や高齢女性らの一時保護が増えていたりといった問題が提起され、登壇者は「人

間関係の悩みから、家や仕事など表面的な生活を再建するだけではうまくいかなないケースもある」「キャッチした事例を関係機関でつないでいくことが必要」などと議論。田中教授は「制度ありきでなくニーズありきで、網の目を紡ぎ直す連携が求められている」と呼びかけた。

ネットホップは昨年、社会貢献支援財団の表彰を受

けており、この日は同財団の安倍会長がステップハウスを視察し、入居者に経験を聞き取った。

シンポで講演した安倍会長は、東京のホスピスで出会った元ホームレスの男性に「東京タワーを造った」と聞いたと紹介し、「日本の経済成長を支えた人たちを見捨ててはいけない」と話した。夫の安倍晋三元首相が殺害された事件にも触

れ、「どんな生活状況でも人を殺していいことにはならないが、相談する相手がいたら違ったのかもしれない。助け合う社会になってほしい」と訴えた。

（新妻亮太、一ノ瀬満瑠）



こうちネットホップの設立15年を記念して開かれたシンポジウム（高知市永国寺町）